無意識のうちの思い込み

二見中学校一年　谷　佳純

私の家庭は、お母さんもお父さんも毎日外に出て職場で仕事をしている「共働き」の家庭です。ほかにもそれぞれの家庭にそれぞれのかたちがあると思います。では毎日の「家のこと」はだれがしていますか。私の家ではお母さんが料理や洗い物でお父さんが洗たく物を干したりたたんでいることが多いけど二人で協力してこなしていることもあります。

その光景を小さいころから見ていたのでそれが「あたりまえ」だと思っていました。だけど世の中では、「あたりまえ」ではないのかもしれないと思いました。

例えば、無意識のうちに「男の人は仕事、女の人は家のこと」のような思い込みを私もしてしまっているかもしれないなと思いました。なぜなら、「家事」や「育児」という言葉を聞くと女の人を思いうかべてしまうからです。社会は変わりつつあるのかもしれない

けど、性別による決めつけや思い込みは社会の中にはまだまだ残っているのだと思います。それによって自分のやりたい仕事ができなかったり、傷ついたり、大へんな思いをしてしまう人がいるのはよくないことだと思います。だからこそ私は無意識のうちに社会の中でつくられたイメージや思い込みについて一度考えて、見直して女の人が不利になるような社会にならないようにしたいです。

でも、このように男の人はこう、女の人はこうというような無意識のうちにつくられたイメージはほかにもたくさんあると思います。例えば、消防士といえば男の人、看護師といえば女の人や黒いランドセルといえば女の人のようにどん赤いランドセルといえば男の人、どん出てきます。でもそれも私の中にも少しでもその考えがあるからだと思います。

このような考えは私たち一人一人の無意識のうちの思い込みによって社会全体の思い込みになっていってしまっているのではないか

と思いました。だからこそ、私たち一人一人が改めて考えて、見直していくことがとても大切だと思いました。男の人の方が立場が上、女の人の方が立場が上ではなくてだれもが平等に自分らしく暮らしていける社会になるためには「男の人だから」や「女の人だから」というイメージや思い込みを改めて考えて、見直していきたいです。

それでもまだまだ課題はあるかと思います。一人一人が自分のこととして根気よく向き合っていくことで少しずつでも社会は変わっていくと思います。私もその一人として取り組んでいきたいです。それをふまえて最初の話にもどると、家のことはだれがやるというきまりはないし、だれか一人がやらなければいけないというきまりもないです。だから、できる人ができることをしたり、みんなで手分けしてやったり、それぞれの家族のかたちなどにあわせてどんなバランスが良いか改めて

考え直してみることも大切なのではないかと思います。私の家でもうまく分担できている
ように見えても気づかないうちに大へんな思
いをしてしまっているかもしれないので、私
も手伝いながらまずは家族みんなが気持ちよ
く過ごせることを目指していきたいです。

20 × 20